

第2学年 国語科学習指導案

2組 計25人(男子9人、女子16人)

指導者 松山 美香

1 単元 「お話、大きさ」

(教材「お話をいっぱい」、「こんなお話を考えた」 光村2年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、第1学年「おはなしよんで」、「ほんとなかよし」の学習や日常の読書活動を通して、昔話や童話などの易しい読み物の読み聞かせを体験してきている。その中で、様々なお話を出会い、想像しながらお話を聞く楽しさを味わってきており、読書に親しむ態度が育ちつつある。書く活動においては、第2学年「かんさつ名人になろう」などの学習で、観察や取材で発見したことなどについて、簡単な組立てを考えて文章を書く経験をしてきている。また、第2学年「スイミー」などの物語の学習では、動作化や劇化を取り入れて、想像を広げながら登場人物の気持ちや周りの様子について書く学習もしてきている。こういった学習の中で、子どもたちは相手意識や目的意識をもって文章を書く楽しさや、想像を広げながら自分の思いや考えを表現する楽しさを感じつつある。さらに、句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方が分かり、文の中で正しく使うことができるようになりつつある。

そこで本単元では、読み聞かせなどによって様々な易しい読み物に親しんだり、絵を基に想像を広げながら、簡単な組立てを考えてお話を作ったりする能力を育てるなどをねらいとした。

教材「お話をいっぱい」は、様々なお話をブックトークを基に、教師の読み聞かせを聞いたり、自分の気に入ったお話を読んだりするようになっており、子どもたちの読書意欲を引き出すことができる。また、教材「こんなお話を考えた」は、三枚の絵を基にして絵本作りをするものである。場面の様子などについて想像を広げながら、「はじめ・中・おわり」の構成を意識したストーリーを考えることができるということから、この時期の子どもたちの学習にふさわしい教材である。

また、本単元で子どもたちは、事柄の順序を考えながら、語と語、文と文との続き方に注意して書く力を身に付けるとともに、句読点やかぎ(「」)の使い方などを改めて理解し、文の中で正しく使う力を養うことができる。

さらに、自分が考えたお話を基に世界で一冊の絵本を作り、友達同士で読み聞かせをするという活動をすることで、書くことへの関心・意欲を高め、表現する楽しさを味わうことができる。そして、これらのこととは、相手意識や目的意識をより明確にもって、適切に表現しようとする態度を養うことにつながっていくと考える。

(2) 単元の目標

【◎は単元の重点目標】

- ◎ 楽しみながらお話を読んだり、作ったりしようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- ◎ 想像を広げながら、簡単な組立てを考えてお話を書くことができる。 【書く能力】
- 場面の様子や人物の気持ちなどについて、想像を広げながら読むことができる。 【読む能力】
- 句読点やかぎ(「」)などを文の中で正しく使うことができる。 【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 本単元・本教材に関する実態(調査人数25人) () は人数 H 17.9)

- ① 本を読んだり、読み聞かせを聞いたりするのは好きですか。
 - ・どちらも好き(24)…楽しく、うきうきする(11),いろいろなことが想像できる(10)
いろいろな面白いお話がある(5),頭がよくなる(4)
いろいろな気持ちを味わえる(1),いろいろな主人公が出てくる(1)
 - ・あまり好きではない(1)…読み聞かせは好きだが、本を読むことがめんどくさいときがある(1)
- ② どんな種類の本をよく読みますか。(複数回答)
絵本(13),シリーズものの本(10),迷路などの本(9),動物などの図鑑(7),詩(1),料理の本(1),長編物語(1)
- ③ お話を作ったり、考えたりするのは好きですか。(内容は複数回答)
 - ・好き(23)…自由に思い浮かべることが楽しいから(16),自分だけのお話ができるから(9)
 - ・あまり好きではない(2)…お話をうまく思い浮かべないから(2)

本学級のほとんどの子どもたちは、本を読んだり、読み聞かせを聞いたりすることを好んでおり、お話を世界に浸り、いろいろなことを想像しながら読んだり聞いたりする楽しさを感じている。また、絵本やシリーズものの本をよく読む子どもが多いものの、迷路や図鑑などのストーリー性があまりない本に好みが偏っている子どもも多い(①, ②)。

④ 文を書くことは好きですか。
・好き(14)…書いていると想像が膨らんで、いろいろな文が浮かんでくる(10)
お話を自分で作ることができる(3), 字を書く練習になる(2)
・あまり好きではない(11)…うまく文が書けない(7), 手が疲れる(4), 字がうまく書けない(3)
⑤ 順序を考えて書くことについて
ア 語と語の続き方に注意して文を書くことができる。できる(22) できない(3)
イ 文と文の続き方に注意して文章を書くことができる。できる(21) できない(4)
⑥ 句読点やかぎ(「」)の使い方について
ア 句読点を必要な箇所に使って文を書くことができる。できる(21) できない(4)
イ かぎを使う箇所を理解し、正しく使うことができる。できる(16) できない(9)

お話を考えることについては、お話を思い浮かべないことなどを理由に興味・関心が低い子どもがいるものの、自由に思い浮かべることできる楽しさを多くの子どもが実感している(③)。

文を書くことについては、表現する楽しさを感じている子どもが半数以上いる一方、思いを文章としてうまく表現できなかったり、表記を気

にするあまり書くこと自体に抵抗を感じたりしている子どもも半数近くいることが分かる(④)。

また、日ごろの学習の様子を見ていても、必要な事項を順序よく書いたり、句読点やかぎ(「」)を正しく使ったりすることができていないなど、言語事項が定着していない子どもも見られる(⑤、⑥)。

これらのことから、ストーリー性豊かな絵本の読み聞かせなどを通して、想像を広げながら読んだり聞いたりする楽しさを味わうことや、絵を基に想像を広げながら簡単な組立てを考えてお話を書いたり、その中で表記についても正しく理解したりすることができるよう工夫することが大切である。

イ 「学び合い」の実態

本学級の子どもたちは、これまでの学習の中で、ペアやグループで話し合ったり考えたりする経験をしてきている。その際、自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりすることによって、「一人で考えるよりもいろいろな考えが思い付く」などのよさを感じたり、「友達に教えるのが楽しい」などの喜びを味わったりしてきている。学級の雰囲気については、多くの子どもたちが自分の考えを自由に言える雰囲気であると感じている。しかしながら普段の授業の様子を見ていると、友達の考え方のよさを積極的に見付けて褒めようとする態度が、学級全体に広がっているとはいえない。

これらのことから、ペアやグループでの活動も取り入れ、他とのかかわりを多く設定するとともに、友達の考え方のよさに目を向け、認め合いながら学習を進めていくような授業づくりをしていくことが大切である。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、以下のような点に重点をおいて指導していきたい。

(1) 評価方法及び評価に基づく指導について

- 子どもの発言や表現のよさを具体的に称賛し、学級全体に広げるようとする。
- 簡単な記号を使って自分の活動を振り返ったり、互いの評価カードを友達と交換し合ったりするなど、自己評価・相互評価活動を活用する。

(2) 個に応じた指導について

- 想像したことをなかなか文に書き表すことができない子どもには、参考作品や穴埋め式のヒントカードを基に考えることができるようとする。
- 絵本作りの際に、子どもたちがじっくりと活動に取り組むことができるよう指導計画を工夫し、一人一人の活動状況を把握しながら学習を進めるようにする。

(3) 高めたい「学び方」について

- 自分の考えが明確になるよう、挿絵や吹き出しなどが付いたワークシートを活用し、簡単な組立てを考えて書く。
- 表記について正しく理解したり、表現のよさに気付いたりするために、教科書にある作例を活用して書く。

(4) 「よりより学び合い」の場について

- お話作りの際に、場面の様子や会話の一部を提示し、それを基に考えたり、教師や友達と一緒に話をしながら考えたりすることができるようにして、自分の考えをもつことができるようとする。
- 教師自らが子ども一人一人の考えを認めて称賛したり、子どもたちが友達の考え方のよさを称賛する際に理由を付けて発表できるように話型を示したりして、互いの考えを尊重し合う雰囲気を作ることができるようにする。
- ペアやグループでの活動を適宜取り入れ、互いの考えを交流する機会を設けることで、自分や友達の考え方のよさをお話作りに生かすことができるようとする。

4 指導計画 (全 16 時間)

●は、本単元における主な「学び合い」とそのねらい

過程	時間	主な学習活動	教師の指導	評価項目や評価方法
つかむ	4	1 ブックトークを聞き、自分の気に入ったお話を読む。 2 学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 想像を広げながら、世界に一冊だけの絵本を作ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ お話の書き出しや主人公の紹介など様々なパターンでブックトークをすることで、読書意欲が高まるようになる。 ○ 読み聞かせをし、絵本の楽しさを味わわせることで、本単元の学習への興味や関心を高めることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しみながら読み聞かせを聞いたり、進んで本を読んだりしていたか。(観察、読書カード)
深める	4 (本時 1 / 4)	3 「こんなお話を考えた」の絵を基に絵本作りをする。 ① 三枚の絵から想像を広げ、「はじめ・中・おわり」の簡単な組立てを考える。 (本時) ② 場面ごとのお話を文章に表す。 ③ 推敲する。 ④ 絵本を仕上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三枚の絵を基にした参考作品を提示することで、絵本作りへの意欲を高めるとともに、見通しをもつことができるようになる。 ● 想像を広げながら自分のお話を場面ごとにしっかりと考え、友達に分かれやすく伝えることができるよう、挿絵や書き出しなどが付いた場面ごとのワークシートを活用する。 ● 三枚の絵を基に想像を広げながらお話を考え、発表し合うことで、互いの考えを交流することができるようになる。 ○ 想像を広げながら場面と場面をつなぐことで、順序が分かるようにお話を考えることができるようになる。 ○ 教科書の作例を読み、表現の工夫を見付けることで、自分のお話づくりに生かすことができるようになる。 ○ 推敲する際に観点を示すことで、その観点に沿って読み返すことができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想像を広げながら楽しくお話を考えることができたか。(ワークシート・発表) ・ 「はじめ・中・おわり」の簡単な組立てを考えて、お話を書くことができたか。(ワークシート・発表) ・ 簡単な組立てを考えてお話を書くことができたか。(ワークシート) ・ 友達の作品のよさやアドバイスを自分の作品に取り入れながら絵本を作ろうとしていたか。(ワークシート・観察)
味わめる	6	4 世界で一冊だけの絵本作りをする。 ① 登場人物や話のあらすじを考える。 ② 挿絵になる場面を考える。 ③ 話を考える。 ④ 推敲する。 ⑤ 絵本を仕上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 登場人物などお話作りに必要なことを整理できるワークシートを準備し活用することで、簡単な組立てを基にお話を考えることができるようになる。 ○ お話の基となる挿絵をいくつか準備することで、想像を広げながらお話を書くことができるようになる。 ● グループで作品を読み合うことで、自分や友達の作品のよさに気付いたり、表記の間違いを修正したりすることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文の中で句読点やかぎなどを正しく使うことができたか。(ワークシート)
ま広げめる	2	5 友達同士で作った絵本の読み聞かせをする。 6 感想を出し合い、学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達同士で読み聞かせをし、感想を発表し合うようにすることで、絵本を作り上げた成就感を味わわせるとともに、書くことへの意欲を更に高めることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や友達の作品の面白さやよさを味わうことができたか。(観察、感想カード)

5 本 時 標 準 開 展 (1) 目

● 三枚の絵を基に想像を広げながら、簡単な組立てを考えてお話を作ることができる。

◆ 重点評価項目を受けての指導

過程(分) つかむ (5)	1 前時までの学習活動と予想される子どもの反応	○ 前時までの学習を想起したり、三枚の絵を基にした参考作品を提示したり、絵本作りへの意欲を高める見通しをもつて確認することができます。○ 学習に取り組むことができるようになります。
	2 学習の課題を確認する。	○ 三枚の絵を見て、ぞんざにお話をするか考えよう。
	3 学習の進め方にについて確認する。	● 三枚の絵を見て、それぞれどんなお話ができるぞうか考えてみましょう。 ● お話をできたら、三枚の絵を並べ替えて、はじめ・中・終わりの順番を考えてみましょう。 ● 考えたお話を、グループの友達と紹介し合いましょう。
	4 三枚の絵を基に、想像しながらお話を表すことをはじめてみる。	● 誰がいるかな。 ● 周りには何があるのかな。 ● どんなことをしているのかな。 ● 何を話しているのかな。
	5 考えたお話を基に、グループで話し合う。	○ さんほウーテーイの順番で発表し合いましょう。
	6 本時の学習を振り返り	● 同じ絵でも並べ替えると違う話にならんです。同じ会話を入れると、すごく楽しいお話になります。 ● ○さんのお話の△△のところがよかったですから、ぼくも真似してみたくなりましたよ。